

第2回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループ～人をひろげる～
への質問・意見及び回答

第2回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループにおいて、以下のとおりいただいたご質問・ご意見等を取りまとめるとともに、事務局より回答いたします。

※なお、ご質問・ご意見の中の個人を特定する内容については、掲載しておりません。

パネルディスカッション前半「世田谷区ピア養成講座（基礎編）で得られたこと・大切なこと」について、あなたのご意見、ご提案、ご感想を教えてください。

・ピアサポーターと一緒に考え、講座を作り上げられているところに感動しました。このような考えが支える・支えられるといった壁をとりはらい、共に同じ目標に向かう仲間として活動できることにつながっているのだろうと感じました。

・坂本さんのお話でとても丁寧に企画や考えられたスタッフ、ピアの人たちといっしょに作った研修になったのだなと感じました。それを受けて、いろいろと考えて今後活動しようと思って下さっているのだなということをゲヴォリーナさんがお話下さって、とても素敵な化学反応がおこっている!!と思いました。

・ピアの研修を作っていただいて感謝しております、ありがとうございます。基礎編では、ピアってなんだろう?とか、どんなふうこれからやっていこうかなど、わかりやすい講座でした。GWなど楽しみながら参加出来ました。

坂本さんの「居だけでピア」「ピア抜きで決めない」本当にそうだな、大切な事だなと思いました。ゲヴォリーナさんのお話も、共感出来て、とても胸に響きました。

・ピア養成講座のプログラムをユーザーの方々と一緒に計画したことにより、立場の違う講座参加者同士が、多様な視点から、「ピアサポート活動」への理解を深められていることに感銘を受けました。基礎編講座は、まず間口を広げて、できるだけ多くの人にとって敷居の高さをなくすことが大切な役割だと思うからです。

・MOTAの報告の中で、自分で選んで、サービスを使う人という意味を込めて「ユーザー」と呼んでいるということに、とても共感しました。また、そういった風土があったからこそ、研修プログラム自体を当事者の方々と一緒につくりあげるといプロセスを踏むことができたのだと感じました。地域福祉の専門職として、当事者参加という意識から一歩踏み込んで、当事者参画の視点を持つことや、そこに踏み込む覚悟を持つことの必要性を考えさせられました。ゲヴォリーナ次郎さんが触れられていた、相談＝自己決定の支援という言葉も身につまされました。

・ピア養成講座の場で、みなさんが得られた「力」を分けてもらえました。制度上のカリキュラムでもあると思いますが、こうした場が作れていることはすばらしいことと思います。

<p>・世田谷区でピア養成講座が開かれてとてもよかったです。なかなかハードな研修なので、ついていけない人もいると思うので、もう少し簡単な研修も区ではやって欲しい。前半の講座では、ピア電話をやっている者としては自分を振り返る参考になりました。</p>
<p>・世田谷区のピアサポートへの取り組み、MOTAの活動についてよく知ることができた。行政のバックアップあってこそ、ピアサポーターやピアスタッフが活躍できる場が広がるのだと感じた。</p>
<p>・ピアサポートに参加された実際の当事者の方からの声は大変貴重で、とても素晴らしいと思った。当事者の方の声が一番、インパクトあります。登壇いただいて、ゲヴォリーナ次郎さん本当にありがとうございました。</p>
<p>・受講者の感想を話してくださり、養成講座がすばらしかったことが伝わってきました。参加したかったです。</p>
<p>・傾聴って重要だなあと思った。</p>
<p>・入院中の方の話がリアルに感じた。</p>
<p>・モタユーザーとして感じるのは、思ったことを言いやすい土壌(お互いに)がモタにはあると思った。</p>
<p>・一緒につくること、リカバリーストーリーのバトンをつなぐこと、本当に大切だし、素敵なことだと思います。</p>
<p>・「リカバリーのバトンをつなぐ」、「自分自身の体験を『価値あるもの』として捉える」、「居るだけでピア」、「自分の体験で誰かが救われる。そのことで自分が救われる」、「ピアだからこそ共感でき、共有できる」等・・・心に響く言葉がたくさんありました。現在は高齢分野に従事していますが、「ともに生きる地域社会の実現」のためにはどの分野でもピア活動の考え方は有効だと思いました。</p>
<p>・ゲヴォリーナ次郎さんの話の中の自分の体験談「リカバリーストーリー」が他者に希望、勇気につながる可以说是という言葉に感銘を受けました。自分自身も相談支援の仕事をする中で希望、勇気につなげるということを意識できるようになりたいと思います。</p>
<p>・今日のお話を伺って、ピア養成講座について、とても興味を持ちました。ゲヴォリーナさんのお話は、とてもわかりやすかったです。リカバリーストーリーを話すことで、みなさんから共感を得られ、おそらく、そこでご自身の潜在能力を見いだせられたのではないかと感じました。一言一言に感動して聴いていました。また、宮内さんがゲヴォリーナさんが退院する前からサポートされていたお陰で退院する勇気が出たというお話から、お二人には信頼関係が築き上げられたのだと感じました。</p>
<p>・リカバリーストーリーは、聞く人のために話す。リカバリーストーリーとは、回復や病気からの自分再構築の過程である。ということが分かり、ためになった。</p>

- ・ピアさんがどのような養成講座を受けたのか気になっていたのですが、概要を知ることができてよかったです。対人関係のGWだけでなく、自己理解やセルフケアも深められているというのが印象的でした。講座の組み立ての段階で当事者さんが入っているというのも、ピア育成側と養成側がいい意味で境界があいまいで、一方的にならずとていいなと思いました。

ゲヴォリーナ次郎さんが入院中からこれだけピアさんとして活躍されてる姿に、心打たれました。やはり当事者さんの姿、お話は、多くの人々の心を動かすと思います。

ぽーと宮内さんの「ピアだから何かしなきゃいけないというわけではない」というのが印象的で、支援する側とされる側、みんながどちらにもなるんだなと感じました。まさに地域共生社会に繋がるお話だなと思います。

- ・ピア活動をするにあたって色々な動機があると思うので、その人にあった活動を支援していけるといいと感じた。地域活動支援センターが増えると居るだけでも十分にピアとしての存在や価値がある実感が持てる人も増えるのではないかな。

- ・当事者と支援者の境界がなくなるような感じがしました。

- ・正直長ったらしくて要領を得なかった。

- ・養成講座参加者のうちの話がメインで、障害をもつ娘との接点が見つけられず、残念でした。

- ・理解不足で意見等はありません。

【事務局より】

たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございます。

令和2年度に、区としては初めてピア養成講座を実施しました。世田谷区の基礎編講座は、できるだけ多くの人に参加いただきピアを感じていただけるように、敷居の低い内容としました。また、皆様からも多くのご意見をいただきましたが、スタッフ、ピアと一緒に研修内容を作り上げたことで、共に同じ目標に向かう仲間としての意識が醸成されたと認識しました。

今回、ピア養成研修を受講された立場からご登壇いただいたゲヴォリーナさんのメッセージに感動したという声がたくさん届きました。

『自分の語りを通して、リカバリーのバトンをつなぐこと。他者の希望・勇気につながるができること。お世話になった病院・地域社会に恩返しをしたい。私がたくさん救われたように…』本当に素敵な言葉だと思います。今後開催予定の第3回ワーキンググループ「場をひろげる」では、様々な「活躍の場」について意見交換をしていきます。今回、ワーキンググループに参加した皆様が感じ取られたゲヴォリーナさんのメッセージの効果も踏まえて議論したいと思います。

また、『「ピアだから何かしなきゃいけないというわけではない」というのが印象的で、支援する側とされる側、みんながどちらにもなるんだなと感じました。まさに地域共生社会に繋がるお話だなと思います。』というご意見を頂きました。

今後のピア養成研修では、ピアサポート活動に興味がある団体や支援者にも積極的に受講いただけるように検討してまいります。

頂いた意見も踏まえて令和2年度に実施したピア養成講座を検証し、ピアサポーターの裾野を広げる取り組みについて検討を進めます。

パネルディスカッション後半「当事者だけでなく支援者や共に活動する人も一緒に学び、お互いに理解し合う必要性」について、あなたのご意見、ご提案、ご感想を教えてください。

- ・支援者側も支援される側も皆がピアであるという考えに、とても共感しました。
リカバリーストーリーを傾聴する時は、相手の話を絶対に批判はせず、ありのままを受け止めることが大事であるというのは、ピアサポートでは、とても大切なことだと思いました。
「だめじゃないよ」と言って欲しい気持ちがとてもわかります。お互いを知り、尊重し、強みを理解することで、他者を肯定し、自己肯定につながるのだとわかりました。
また、自分に足りないものを素直に認め、謙虚になり、全員が心理的な安全性を持ち、共に歩いていくことが大事だとわかりました。
更に、支援者側の前に、まず一個人であるのが前提で、そのバックにその人のお仕事があるという考え方にも、とても納得できました。
皆さまの貴重なお話を聴かせて頂きまして、本当にどうもありがとうございました。
- ・リカバリーストーリーは人生の再構築の過程であるという、小阪さんの話が面白かったです。
- ・リカバリーという言葉の捉え方が、小阪さんの「再構築」と、ゲヴォリーナ次郎さんの「回復」とで微妙にニュアンスが違ったのも、とても興味深かったですし、そういった違いも含めて、否定も肯定もせず、ご本人の思いを受け止めていく姿勢の大切さを実感しました。
- ・相互理解、一緒にリカバリーしていくためには、付け焼き刃でなく、1年から数年のある程度の期間が必要だということが分かった。
- ・誰もが自分らしく生きることは当たり前の権利で、それが「普通」であるはずなのに、一方で、「普通」になろうと悩んだり、苦しんだりすることの難しさを感じました。このことは、障がいのある方だけでなく、自分自身も含め、多くの方が経験したことのある悩みだろうと思いましたし、この普通の価値を転換することがいかに難しいか・・・一緒に過ごすことで自然と価値変容していくというお話がありましたが、正にこれに尽きるのかもかもしれません。
- ・理解って大変だと思いますが、個人個人の尊重性は大切にできたらいいなあ！と思いました。
- ・自分を理解されると言う事は、安心、うれしい事です。
- ・支援者の気持ちが見えないとこちらの気持ちをどう言ってもいいかわからなくなる。
- ・想像以上に精神障害者に向き合っていて驚いた。
- ・働くという関係の中では職員側も期待してしまう面がどうしても出てきてしまう。そうすることで負担にならないように気を付けないといけないと感じた。関係性やその方の障害特性や性格などを分けるには時間がかかると感じるが、業務が多忙な中だと関わり方が難しいと感じた。

<p>・会場でも話に出てましたが、障害があるとかないとか関係なく一緒に学ぶ・お互いに理解するとか当たり前のことと感じて、でもそれを改めて感じられてよかったです！</p>
<p>・ソラティオの実践のお話から、学び続ける姿勢、謙虚な気持ちを忘れないことを改めて考えることができた。</p>
<p>・専門職パネリストの方が、ピアスタッフと働くことで「謙虚さが身についたこと」が一番大切だったという言葉が非常に印象に残っています。日本を「共生社会」として再生させていくには、「謙虚さ」は国民全員にとって必要なことなのではないでしょうか。「謙虚さ」という文言、意識に思い至ることのない人が、多すぎるように感じている昨今なので…</p>
<p>・ソラティオさんの法人理念、すべての人に安心を、素晴らしいと思いました。 専門職と当事者、互いに見限らない、見捨てない。謙虚さを大切に、心がけたいと思いました。</p>
<p>・一緒に楽しく働き、一緒に何かをつないでいけるとよいですね。私もその一員として参加していきたいです。</p>
<p>・残念ながら、そのような余裕がない状況にある当事者にとって、なにか、希望や救いに結び付くようなお話がきけるかと期待しておりましたが、雲の上の人々のお話ばかりで、残念でした。</p>
<p>・すでに机上で決められている概要論にとどまってしまったのは大変残念でした。当事者の声が前半であったからこそ、当事者とともにまさに今後の展望を描ける時間になれば、もっと素晴らしい時間になったことと思います。</p>
<p>・人間誰々がいて、その後ろに役職があるという言葉が良かった。小阪さんのプレゼンも、当事者として共感できる点が多く頷きながら聞いていた。</p>
<p>・小阪さんや岡部さんのお話で出てきた、批判しあわない、エンパワメント、いいところを互いに伸ばしていく、安心できる（職場）環境の大切さ。あきらめずに前を向く、などは、特に精神疾患を持っている方だけではなく、私たちいわゆる健常者にとっても、とても重要な概念だと思います。福祉分野のみならず、広く一般企業の研修等でもお話いただきたい内容だと思いました。 ピアさんの就労に関して、学ぶ点が非常に多かったです。 ピアサポーターの〇〇さんである前に、一人の〇〇さんであるということが心に残っています。 属性等に捉われず、労働者ひとり一人が大切にされる社会というのを、ピアさんの就労を通して改めて気づかされました。</p>
<p>・パネラーのみなさまの話の間くうちに、「ピアサポーター」という言葉自体で区別してしまっているような気がしてきました。一緒に活動する職員としてとらえていくことが前提で、そのあとに専門性がついてくるという言葉は印象的でした。</p>

・お互いを知り、尊重し、強みを理解することで、他者を肯定し、自己肯定につながるのだとわかった。また自分に足りないものを素直に認め、謙虚になり、全員が心理的な安全性を持ち、共に歩んでいくことが大事だとわかった。更に、支援者側の前に、まず一個人であるのが前提でそのバックにその人のお仕事があるという考え方にも、とても納得できた。

・病院に同行して本人が医師へ伝えないことを本人が伝えるサポートはピア活動のサポートという面もあったのかな…とふりかえりました。日々の支援に疲れ、おごっていた自分に気づかされました。他の職員にも聞いてほしい内容でした。

・私はMOTAに通いながら、ピア電話や動機付け支援事業には参加するが、無理のない範囲でお祭りなどにも参加したいし、MOTAはピアスタッフは雇わないと聞いているし、ピアスタッフになる気はないし、病状からしてなれない。これ以上、病気の面でのリハビリも今ぐらいで良いと思っている。3, 5年一緒に行動しないとお互いのことは分からないと言っていました。その前に職員は異動してしまうのでは？

入院しながらの参加のゲヴォリーナ次郎さん、他のユーザー、他のスタッフの皆さんも今日はお疲れ様でした。

・「地域共生社会」の実現は身近なところから始めないと進まないのではないかと思う。様々な視点が入ることで支援の幅が広がり、障害のあるなしにかかわらず、地域の人安心してらせる地域づくりにつながるのだと気づかされた。

・その通りだと思いますが、実践は簡単なことではないとも思います。だからこそ、大切なことと言えるのだと思います。批判しないでいいところをみていく、批判ではなく感想でとってもらえるとうれいなあ。知的障害の方の事業所でもピアサポートをしてもらえるといいのだと思います。

・ソラティオの小坂さんと岡部さんのお話をきいて、同じだなあと共感することと、覚悟を持つというところもハッとしました。そしていっしょに活動しているその時間の大切さも同時に感じました。自分の中でも大切にしたいなということが少しずつ凝縮できるかも…！と思いました。

【事務局より】

たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございます。

ソラティオの小坂と岡部さんのお話では、小坂さんの“先輩ピアサポーター”だからこそのご発言や、活動を共にする岡部さんの考えに多く意見・感想をいただきました。

- ・ピアサポーターの〇〇さんである前に、一人の〇〇さんであるということ。一緒に活動する職員としてとらえていくことが前提で、そのあとに専門性がついてくる。
- ・お互いを知り、尊重し、強みを理解することで、他者を肯定し、自己肯定につながる。
- ・専門職と当事者、互いに見限らない、見捨てない。謙虚さを大切に。
- ・障害があるとかないとか関係なく一緒に学ぶ・お互いに理解するのが当たり前。

- ・ 支援者側も支援される側も皆がピア（他者を支援する同じ仲間）である。
- ・ あきらめずに前を向く、覚悟を持つ。いっしょに活動しているその時間が大切。
- ・ 大丈夫だよと言ってくれる。安心できる（職場）環境の大切さ。
- ・ 福祉分野のみならず、広く一般企業の研修等でもお話いただきたい内容。

今回ご参加いただいた皆様の意見・感想を踏まえ、今後のピア養成講座では、ピアサポーターと協働する支援員やピアサポーターの活動に興味がある団体・支援者にも積極的に対象拡充し、ピアサポーターとチームとして活動、協働する心構えや必要な知識、環境づくり等についても盛り込んでいけるように検討します。

また、ピアサポーターとして働きたい。という声もいただいています。働く密度の高いピアサポート活動にも対応できる研修についても検討していきます。

その他、本日のワーキンググループ全体を含め、ピアサポート活動に関する意見や提案、感想などをご自由にご記入ください。

・ピアという活動がピアにしかできない、という割に自分たち障がい者の市民権がまだまだない気がしている。世田谷区から、精神障がいの当事者も地域の一員だと実感できるような社会作りができるよう頑張りたいと思った。せっかくある機会なので、結果を残して次につなげたい。

・正直なるべく早く仕事として活動したいです。

・初めて参加しました。参加できて本当によかったです。ありがとうございました。坂本さんのお話のあと、その講座を受けられたゲヴォリーナ次郎さんのお話がとてもよかったです。坂本さんが法人に入って活動することで、いろいろ気付いたこともお話下ってよかったです。坂本さんが悩みながらも企画や研修をスタッフとピアの方と相談しながら作られたものをゲヴォリーナさんが受け取られ、ご自身のことばで力強くお話して下さったというのがとてもよかったです。宮内さんのサポートされている感じも素敵だと思いました。

後半の小阪さん岡部さんからの協働、共に歩いていくというところ、ピア専門職双方の覚悟というところ、価値変容を自然発生的にもたらす、というのも本当にそうだなと感じました。ただ、その双方の覚悟やお互いの信頼関係は本音でのコミュニケーションや、一緒に動いている、その時間の共有あったことだろうなと思いました。「謙虚さ!!」本当にそうだなと思いました。本当に大切に、そしてむずかしいテーマだなと思いました。皆さんがおっしゃるようにスタッフもメンバーもピアの方も「人としてのあたりまえのかかわりの大切さ」をおっしゃって下りよかったです。

・初めてのワーキンググループに参加して、色々な、お話がでて、内容も本当に難しかったけど、とても貴重な一日でした。もう少し時間があつたらなあ！という気持ちです。

・私は区のピア基礎研修を何とか終え、応用編の研修を受けている者です。パネリストのゲヴォリーナさんの発言に共感できる部分や、拍手を送りたくなるところが沢山あった。パネリストの小阪さんの言葉には、当事者でありながら高いスキルをお持ちでもあり、凄いなと舌を巻く思いで、今日この場で皆さんの生の声を聴くことができ有り難いと思った。人が人として、それぞれの強みやできることを発揮できて認め合える、弱みやできないことは許し合える、あたりまえの社会になっていくことを希望します。

・今回も、皆様のお話に引き込まれてゆきました。

応用編も学びながら、1歩ずつ1歩ずつ、ピアとして自分らしく活動してゆきたいなと思います。よろしくお願ひ致します。

・うちのお話ばかりのように感じ、とても入っていけない雰囲気、敷居がとても高く感じました。

・初めてのワーキンググループに参加して、色々な、お話がでて、内容も本当に難しかったけど、とても貴重な一日でした。もう少し時間があつたらなあ！という気持ちです。

<p>・「ピアサポート」という言葉は知っていましたが、一知半解の状態、それが少しですが理解が深まりました。ありがとうございました。</p>
<p>・ピアということばが頻繁にでてきて、どう意味でつかっているのかわからず、途中で、ネットで調べました。何となく理解できて落ち着きましたが、居心地が悪かったです。知りたいと思って参加しましたが、一回目ありきの進行で、講座参加したかったなあというのが正直な気持ちです。パネリストの無意味な笑いにもイラッとしました。たぶん参加できていない自分がいるからだと思います。ゲヴオリーナさんの話は伝わってきました。後半は、理解することができ、ピアサポートはどんな場所でもできることを感じることができました。でも安易にできることではないですね。知らないことがいっぱいです。知りたいことがいっぱいです。</p>
<p>・今回のワーキンググループ 2 回目の参加になりますが、このような啓もう活動を通じて、今後も大きく広がっていき、いつしかピアサポーターと一緒に働くのが当たり前になる世田谷、そして社会が創られていくと良いなと思います。</p>
<p>・活動や活躍したいと思っている方にとっては良い方向にいつていると感じた。 ただ、そのような流れが大きくなると、何も携わらないことがいけないのでは？とってしまう人が出てしまわぬよう、それぞれの選択があってよいことも含めて周知していくことも必要だと感じた。</p>
<p>・いるだけで良いというのは、私にとっても印象な言葉ですね。よても良いと思います。私自身も良い事なので。私は、誰と話をしていると、いやな事、強い言葉を言われると、心がゆれうごきます。そんな私でも良いのでしょうか。一人の人間として、ピアの仕事をする事、良いと思います。私はピアの仕事はむずかしいのかなあと思っていました。また、経験が出来、聞かれて良かったです。</p>
<p>・少し、声が聞きずらかった。ピア電話に関与している（ユーザー・専門員）が減ってきて、大分苦しんでいるので、そこらへんの早めの援助も期待している。準備が大変そう。パワーポイントなんて作れません。</p>
<p>・このような企画を作られて実行されていること、素晴らしいと思います。 せたがやグリーンサポートのピアサポートに何回か参加させて頂いております。 ピアサポートは、当事者には、とても必要なことだと、深く感じております。 また、住み慣れている地域で暮らすことは、とても大事であると思います。 障がいがある人もない人も、お互いを認め合い同じ地域で暮らすことは、とても大切なことだと思います。そのような地域作りを進めて頂きたいと思います。</p>
<p>・自身の病とも向き合いつつ、ピアサポートの活動にもすこしずつ参加していけるとよい。 支援者のお立場からも、お話を受けられたのは良かった。</p>
<p>・全体を通して、私たちが気づかされることがとても多いです。 ピアさんの広まりは、社会全体が気づくべきことを気づかせてくれる機会になると思います。 ピアさんの活躍を大変期待しております。無理はしないでいただきつつ、がんばってください！</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・今回も示唆に富んだ内容で、とても勉強になりましたし、刺激を受けました。何より、入院中にも関わらず、パネリストとして登壇していただきました、ゲウ` オリーナ次郎さんに心から敬意を表します。どうぞ、心身をご自愛ください。事務局の皆様も準備等々大変だったと思いますが、WEB 視聴でしたが声も聞き取りやすかったですし、快適に参加し続けることができました。ありがとうございました。次回も楽しみにしております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアの活動により自分に価値があることに気づくなど精神に障害のあるかたの生きる力につながる居場所や協議の場の展開が進むことを願っています。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・今日のレジュメやパネラーの発表資料を手元（ネット）でもみれるよいと思いました。（期間限定でも）オンライン参加の方も画面のみでみていたのでしょうか。とても素晴らしい取り組みで、事務局の準備も大変だったと思います。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加出来てありがとうございます！貴重な時間でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポート活動の大切さについて少しですが理解が深まりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・何ができるんだろう、考えてみますね。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・小坂さんの話が良かったです。（人としての…）リハビリー、とは、外国から入ってきた言葉。
<ul style="list-style-type: none"> ・本日参加できてよかったです。ありがとうございました。今度どうなっていくのかなというのが知りたいなと思いました。大切な活動なので議論や検討丁寧にあまり急いでほしくないなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の精神科病院からの退院支援に関してピアサポート活動を行うことは、おそらく前例がないと思われる。が、前期高齢者による地域活動に向けての意識喚起や人材発掘は、今現在あんすこを挙げて進めようとしていることなので、もし該当するユーザーの方がおられれば、ピアサポーターとしての活動の場を検討していくことは可能かもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> ・本日の登壇者の方のパワーポイントの資料が欲しいです。途中でお知らせいただいたアドレスにはアクセスできませんでした。よろしく願いいたします。
<p>【事務局より】</p> <p>ご意見、ご感想をありがとうございます。今回は、『人をひろげる』をテーマに実施しました。今回いただいたご意見・感想は、今後のピア養成に係るプログラムだけでなく、受講対象者やピア活動を継続するために必要な視点を頂けたと思います。そのほかのご意見や感想も今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p> <p>第3回は、『場をひろげる』です。今後も引き続き、皆様のご意見をお伺いしながら進め、また今後の施策へとつなげていきます。ご参加をお待ちしております。</p>